

家に帰るとほつとする
それは誰でも同じだろう。
不安なく帰れると、いふ望みを
叶えるには看護師の力が要る。



転載・二次使用禁止

PROFILE
手帳達人会癡説 搞刊ケアチーム

PRIDE11.8
手嶌康仁会病院 緊急救护チーム

平成6年深川市立高等学校を卒業。深川市立病院手術室などを経て、平成10年から手術深川会病院へ。消化器内科病棟・消化器外科・婦人科病理などを経験。平成21年に緩和ケア認定看護師の資格を取得し、現在は緩和ケアチームの医療看護師として勤務。

わることがあります。9時半にミーティングをしてから病棟をラウンドし、苦痛があるか確認したり、今後の要望をお聞きして関係する部署につなげたりしています。

伊藤 先ほど緩和チームのスタッフに話を聞いたり、医師は「松本さんは患者さんに入り込むのがとても上手。短い時間で患者さんといい関係を築ける」と評価していました。薬剤師さんも「配慮ができ、きめが細やか」だと本音ですか？ うれしいですね。

伊藤 がんの維持期にもなると、入院も長くなるし、治療による苦痛も増す不安感も日に日に大きくなつてくる。

松本

根拠を持つて話せば前に進む

者さんの気持ちに寄り添えたり、受け止められたりする力を持つ看護師さんの存在は、重要ですね。

「気持ち」ではなく「理論」を
根拠を持って話せば前に進む

**患者さんに打ち解けるのが上手
配慮があるとチームも評価**

伊藤 手術と抗がん剤治療を受けたということで、肉体的にも精神的にもつらい時期を経験されたでしょうか。患者さんの表情がとても柔らかかったのが印象的でした。筆談で「今日は落ち

今回は、北海道札幌市の手稲渓仁会病院(手稲区)を訪問。緩和ケアチームの一員として患者の「家に帰りたい」という希望を叶えるため奮闘する松本さんと、それを全面的にバックアップする訪問看護師の大田さんへ、話を伺いました。

不安がなくなければ
患者さんも家に帰れる

伊藤隼也
が行く

Vol.39

ITO
SHUNYA
GA
IKU

Vol 39

